

政務調査研究視察 報告書

会派会長：柴田 泉 ⑤

報告者：稲垣良美

視察日	平成24年10月16日(火)
視察内容	ちよだアートスクエアについて
視察者	稲垣 良美

千代田区

本市では平成24年11月1日から12月2日まであいちトリエンナーレ地域展開事業～あいちアートプログラム～ “岡崎アート&ジャズ2012” が開催される。街中アートという意味合いから今回東京のど真ん中に事業展開している 3331 Arts Chiyoda を視察した。

この施設は千代田区にある文化芸術施設で 2005 年に統合により閉校した区立錬成中学校の校舎を改修して、2010年3月14日にプレオープン、6月26日グランドオープンした。(どうしてこの都会のど真ん中の中学校が統合による廃校となったのか、千代田区は昼間人口と夜間人口の格差が日本一大きな区です、昼間人口85万人夜間人口4万2千人であり子どもの数が極端に少ないのが現状でありますそこで隣接中学と統合し廃校としたもの)

この施設の運営は合同会社コマンド A で、同社代表の中村政人が統括ディレクターも務める。

施設名称の 3331 とは、江戸一本締めの手拍子を数字表記したものでかつて教室として使用されていた部屋をギャラリーとして改修、体育館は多目的スペースとして活用している。(大きな改修は千代田区が費用負担)

展示されている作品の中には日比野克彦らによるものもある。

館長の中村政人氏は日本の現代美術家で東京芸術大学准教授を務めている。

村上隆と共に「中村と村上」展や「大阪ミキサー計画」などの活動を展開した後、コンビニの看板を作品化したシリーズやマクドナルドの M サインを作品化するなど社会的な意味を持つ作品展開を進め、その後「美術と教育」や「コマンド N」「氷見クリック」(富山県氷見市)「ゼロダテ」(秋田県大館市) など社会を巻き込んだ表現活動を行う社会芸術家である。

今日はコミュニケーションディレクターの坂野充学氏から施設の概要等についての説明を受けた。

この施設は千代田区から運営会社コマンド A が年間約 1000 万円で借り受



けテナント 40 店の賃貸による家賃収入で運営していると云うことです。
この施設の補修や大きな改善等は千代田区で行う契約になっており今回 300 万円の費用で改修された。

施設の目的は

- 1) アートを身近にする展覧会
- 2) みんなが集える憩いのスペース
- 3) アートと一緒に楽しめる食のスペース
- 4) 全国のアート&カルチャーシーンを紹介
- 5) 見学・参加が可能な展示やイベント
- 6) レンタルで自由なスペース利用

校舎と体育館はコマンド A の管理とし運動場（芝生広場）は公園として区が管理をしているが、その境にあるウッドデッキはオープンにされており区民が自由の往来できるようにしてある。

施設内での活動は

さまざまなジャンルの第一線で活躍しているアーティストやクリエイターたちがそれぞれの表現を自由に発信する場所として提供されており、最新のアートから誰もが身近に感じられるものまで、そのテーマはいろいろです。

1 階ギャラリーでは、3331 が注目するアートシーンを、展覧会として公開、また従来美術館に感じられた敷居の高さは思い切って取り払いより沢山の人の心地よく過ごしていただけるアートスペースとなるべく、無料でお楽しみいただけるスペースも多く備えている。

館内を歩き回りアーティストたちの活動や展示を覗くことも出来るのが 3331 ならではの魅力です、沢山のイベントや展覧会を行い、さまざまな表現を発信する 3331 は東京だけではなく、日本各地は東アジアをはじめとする世界中をつなぐ「新しいアートの拠点」となることを目指している。

アーティストやクリエイターが作品を作るところを見せまた色んなアーティストが集まる場所を地域との連携で創り上げていきたい。

テナントの数は 40 軒であり先年度は若干の赤字であったが、本年度は期中であるが黒字で推移している。

〔感想・岡崎市への反映〕

芸術とは本当に分かりにくいものだと感じているのは私だけではないと思う。




今回の千代田区の取り組みは区民地域が一体になって沢山の表現に出会える場所を創り、多くのアーティストやクリエイターに集まっていただくことにより物を見て考える力、楽しめる力、創ろうとする力を養えるように、同時に街おこしにも役立てようとする心意気を感じ取れた、本市ではあいちトリエンナーレ地域展開事業として「岡崎アート&ジャズ 2012」を 11 月 1 日から 12 月 2 日まで開催する訳ですが、開催までが目的になりがち、しかし千代田区のように市民に芸術を根付かせようとする取り組みのように本市でも開催後をどの様に芸術と文化を広め進めていくのか、ジャズをどの様に市民の間に広めていくのか、その手段と方法を考え実行するよう会派でしっかり検証して欲しい物です、たとえば街中の空きスペースに市民がジャズやそのほかを演奏できるような場所づくりをして欲しいと期待をするものです。沖縄北谷や千代田区のように市民の力で市民の中から力が湧いてくることを、期待できる提供は行政しか有りませんから。

今後も会派でよく検討して下さることを期待します。

政務調査研究視察 報告書

会派会長：柴田 泉 (印)

報告者：稲垣良美

視察日	平成24年10月17日(水)	
視察内容	文化会館アルフォーレについて	
視察者	稲垣 良美	
柏 崎 市	<p>柏崎文化会館アルフォーレは、先の新潟県中越沖地震で被災し使用不能となった市民会館に代わる、市民の芸術文化活動の中核施設です。</p> <p>アルフォーレでは3つの基本理念があります。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 設備の整った創造活動の場所を提供すると共に市民の鑑賞機会の充実と人材の育成及び創造活動の支援を図ることにより市民の芸術文化活動の中核施設にする。2. 誰もが利用しやすく、気軽に利用できる施設にすることによって、市民に親しまれ、交流や賑わいの創出する場にする。3. 中越沖地震からの復興を象徴し、柏崎市の新しい顔としてまちの活性化に寄与すると共に、市民に愛され誇りに思われるような施設にする。としています。	
	<p>施設規模</p> <p>大ホール・マルチホール・会議室・練習室・その他</p> <ul style="list-style-type: none">・ 大ホールは収容数1102席（1階席が721席 2階席が381席 車椅子8席を含む 多目的観覧室（親子鑑賞室）2室）・ マルチホールは収容数160席 有効面積が182㎡ 天井の高さ6.6m・ 会議室は大会議室が30名収容 中会議室が24名収容 小会議室が18名収容可能です。・ 練習室は大練習場76㎡ 小練習場32㎡・ その他 ミーティングルーム・ワークスペース・キッズルーム・ギャラリー回廊・音のあそび場・劇場広場（野外） <p>施設建設経緯</p> <p>平成18年6月 新市民会館建設検討委員会設置</p> <p>平成19年7月 新潟県中越沖地震発生</p> <p>平成20年3月 「柏崎市震災復興計画」策定</p> <p>11月 (仮称)「柏崎市新市民会館建設基本計画」策定</p> <p>平成21年1月 設計プロポーザル実施（全国140社以上）</p> <p>平成21年6月 仮称柏崎新市民会館管理運営管理等検討懇話委員会設置</p> <p>平成21年9月 基本設計完了</p> <p>平成22年5月 実施設計完了</p>	 

平成22年9月 会館建設工事安全祈願祭
平成24年7月 開館記念式典・記念講演

建設費用

土地購入代金 12億8千万円 21770㎡
設計費用 2億2千万円
本体建設費用 48億円
備品 2億円

財源内訳

合併特例債 35億円
都市防災推進事業交付金 15億円（福祉避難所設置条件付交付金）
電源立地整備金 12億円
一般財源 3億円

ホール特徴

新潟県中越沖震災を経験しているので防災拠点としての文化ホールでなければならないとの考え方。

ホール全体が免震構造で建てられている（ホールとしての免震構造は日本でも数少ないと思う）

防災拠点として福祉避難所となっている（車椅子対応のお風呂・ベット対応の楽屋・分割対応の間仕切り会議室等）

建設に当たって市民との対話を多くしたが、この会合を含め市民との会話を含めた設計から指定管理者選定まではコンサルタントである株式会社シアターワークショップをお願いをした（4年間）この会社は全国の多くの文化会館等を手がけているコンサルトップクラス。条例やら

建設に当たって参考にした文化会館は可児市の文化創造センターアーラ 富山県黒部のカラーレ いわきのPFIで建設をしたアリオス 長岡リジック 小地谷の文化センターなどを視察し参考にした。

コンサルに関しては時間とお金は掛かりましたが、市民との間に係わってもらう事によりうまくいきました。

かかる経費や今後の予算金額等はまだオープン間もないことからつかんでいませんとのことでした。

市民からの声は現在の処お褒めの言葉が多いです。

今後の課題としてはいかにイベントや公演をするかということですが、市長は賑わいの創造が出来るホールにしていきたいとの事でした。

入場者数は7月から9月までで42000人ですが、目標としては7月から来年3月までで88000人を目標としていますが、冬場は雪が降り利用は減る物と考えています。

平日の利用率をいかに増やしていくのが課題です。

大ホールを視察して思うことは音響の反射板効果は素晴らしいこと、2階席に関し可成りの工夫が見られること、床バリ等も消音に心がけられているこ

と、等々可成りホールとして音響に配慮したことが分かります。

舞台も広いですが、他のホールにあるようなせり上がりは有りませんでした。照明も特別な物は見あたりませんでした。ホールとしてのバランスがよくとても使い易そうに見えました。

トイレ等も福祉避難施設ですから大きく広く作られていました。楽屋も避難所としての設備が整っておりいつ大災害が起きても大丈夫だと思えました。

〔感想・岡崎市への反映〕




本市でも現在文化会館の用地を取得中です、こういったことからいわきのアリオスも以前視察させていただいたのですが、今回はアルフォーレを視察して思ったことはアリオスの規模は1500人の大ホール500人規模の中ホールや小ホールを備え建設費用も140億くらい掛かったと記憶しますが、それに比べ今回のアルフォーレは総額65億円中一般財源からは3億円という全く少額で建設できたところでした。

そのためには福祉避難所としての施設を備えて都市防災推進事業交付金15億円を国から取り付け、電力会社からは原発電源立地整備金12億円などの資金を旨く活用して見えました。合併特例債も35億円を利用したとのことでした。本市には原発はありませんからその資金提供はありませんが、現在の政権では都市防災推進事業交付金と言う名前ではありませんが、本市でも激震指定区域内にある訳で何かこの様な交付金があるはずで、設計の段階でよく調べて福祉を含めた避難所として交付金を交付されるよう仕様を含めお願いをします。まだまだ土地の確保の段階です、建設に関し反対意見も有る中どの様にするかも含め議員の諸君にはより多くの情報を集めていただくことを期待し今日の視察が今後会派での検討に少しでもお役に立てば光栄です。

政務調査研究視察 報告書

会派会長：柴田 泉 ⑩

報告者：稲垣良美

視察日	平成24年10月18日(木)	
視察内容	子育ての駅千秋「てくてく」について	
視察者	稲垣 良美	
長岡市	目的 子育て支援の拠点施設として、子育て世代だけでなく、あらゆる年代、分野の人々が集い、交流を深めあいながら、子育て支援の輪を広げていく。	
	特色 市内3カ所の「子育ての駅」は子育て世代だけでなく、多世代が交流できる集いの場であり、保育士が常駐する子育て支援施設として、子育てに関する相談や情報提供等を行っている。 子育ての世代のお母さんで構成される「子育ての駅運営委員」や「子育ての駅サポーター」の参加・協力を得ると共に、子育て支援関係団体等と連携しながら事業展開を進めている。 各施設ともに立地条件や周辺環境を生かし、独自性ある事業運営を行いながら市民と共に成長している。	
	課題 子育てに関するニーズに対し、子育て支援関係団体等と協働・連携した市民協働による子育て支援の推進。	
	関連条例名 長岡市子育ての駅条例	
	施設概要 施設規模 公園：2ha 建物：1282.6㎡ 工事費 4億800万円（財源内訳 都市公園事業補助金：2億400万円 合併特例債：1億9400万円 県貸付金：1000万円 一般財源：7万円）	
	施設案内 運動広場、交流サロン、絵本コーナー、赤ちゃんコーナー、相談室、情報コーナー、授乳室、せんしゅう保育園（一時保育、有料）	
	特色 <ul style="list-style-type: none">公園の中に、雪や雨の日でも遊べる屋根付き広場と、子育て支援施設を一体的に整備した全国初、保育士のいる全天候型公園施設信濃川や堤防、水辺などの立地条件を最大限に生かし、親子のふれあいを深め、子どもの成長をはぐくむ事が出来る場の整備と事業展開を実施近隣の商業施設の利用時など、一時的に子どもを預かる一時保育室「せんしゅう保育園」を開設し、一時保育のニーズに対応。	
	実績 平成23年入館者数 162,209名 一日平均518人	
	総事業費 38,400,000円	
	職員 正規職員 園長・主任各1名 臨時職員6名	

休日 水曜日
一時保育 一日平均5名くらい

ここは公園ですから、どなたでも利用は出来ますが、てくてくへの入場は事前の申込が必要です、何人も集まる公園内で警備上の問題もありしせつないは許可制を取っています。

施設内では飲食も所定の場所であれば自由です、販売は飲料水のみ自販機をおいてあります。

市内外の保育園の園児がよく遊びに来てくれますが、休養施設には入れません、ここは家族ずれの方のみが利用できるように決めたいです。(園児が大勢で占領すると付き添いの親御さんたちが困ってしまうためです)

長岡市にはここの他にも2つの子育て駅があります、一つは「ぐんぐん」と言って長岡市民防災センター内にあります、今ひとつは子育ての駅まちなか絵本館があります、まちなか絵本館は中心市街地再開発ビル「フェニックス大手ウエスト」内2階3階にあります。

他の2つはまちの中にあり規模的にはここより遙かに小さい面積です、が利便性が良いため利用者は結構多いです。

まだ他に子育て支援センターがしない32カ所に開設しています。(規模等詳しいことは聞き漏らしました)

〔感想・岡崎市への反映〕

岡崎市には各地域交流館に子育て支援の部屋が用意されており利用者も多いと聞いています、しかし保育園内に作られた子育て支援センターは八帖保育園だけではなかったでしょうか？長岡市とは大きく差があります、長岡市も本市も待機児童は0と云うことで条件は同じなのですが、なぜこれだけ施設数が違うのでしょうか？

てくてくに関しては公園内に併設されているところが良いところなのですが、長岡市産にはそれなりの理由がありました、それは冬の4ヶ月は雪が積もって外では遊べないために室内運動場を兼ね備えたてくてくを作ったということでした。

本市では雪はまず積もりません、ですから雪で運動不足になるようなことは無いのです。

但しどこか公園内に(たとえば中総など)併設した大きな施設を作っておけばと考えましたが、その場所では利用者があるかどうか？ですから今回の子育ての駅てくてくのような施設岡崎市には必要ないものと思われ、待機児童がいればそちらの解消が先の話ですね、但し本市には待機児童は0とのことです。